

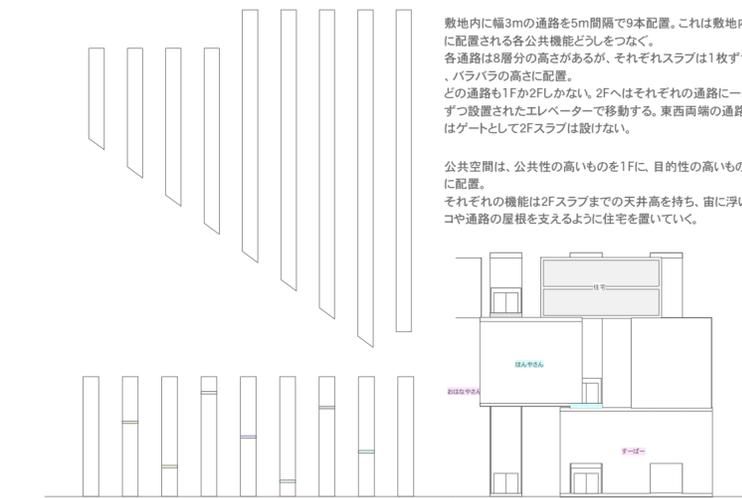
あみだくじ

所在地:長野県長野市新田町
敷地面積:4040平方メートル
用途:複合施設
【住宅+商店(スーパー+青果+精肉+鮮魚+花+ベーカリー+本)+市営施設(観光案内+ホール+スタジオ+子ども支援施設+会議室+職業案内)+休憩コーナー+学習コーナー+ロッカールーム+印刷室】



敷地は長野県長野市のJR長野駅から国宝善光寺までの約1.8キロある参道の中間地点。以前は銀行やデパートのあった地域だが、それらは衰退し、現在空洞化している。
敷地に建っている建物もまた大型スーパーが入っていたが閉店、現在は長野市が買い取り市営施設やスーパーが入っている。特にスーパーは地域住民の要請によって誘致され、多くの地域住民が利用している。
元々、周辺には駅前のような大型商業ビルではなく、小さな商店が並び、東西に走る大通り沿いには小学校があるため、そこには地域住民の生活があった。多く利用されているこの建物だが、築30年経ち、老朽化が問題視されている。
そこで、この敷地に住宅という新たなプログラムを入れた、住の拠点としての施設を計画する。

現代社会は社会システムが他者との接触を極力避け、いつでもどこでも早くといった方向に向かっていく。そんな中でコミュニケーションは必然性を失っていく。そのほとんどが個人の自発性に基づく。そうした中では他者に興味を持たなければヒトもモノも等価である。しかし、他者に興味を抱いたとたんにその他者は三人称から二人称となり、関係性が生まれる。そうしたコミュニケーションの発生は個人の趣味・興味などによって起こるため、それがいつ、どうやって生まれるのかは予測不可能である。そこで、公共空間+集合住宅の複合施設を設計し、そこでヒトとヒトとの関係を強制・誘発するのではなく、他者との接触の有無を選択する余地を与えた自由度のある計画を提案する。



敷地内に幅3mの通路を5m間隔で9本配置。これは敷地内に配置される各公共機能どうしをつなぐ。各通路は8層分の高さがあるが、それぞれスラブは1枚ずつ、バラバラの高さに配置。どの通路も1Fか2Fしかない。2Fへはそれぞれの通路に1枚ずつ設置されたエレベーターで移動する。東西両端の通路はゲートとして2Fスラブは設けない。

公共空間は、公共性の高いものを1Fに、目的性の高いものは2Fに配置。それぞれの機能は2Fスラブまでの天井高を持ち、宙に浮いたハコや通路の屋根を支えるように住宅を置いていく。

